**ハンドマイク街頭演説原稿例　　気候危機２０３０戦略**

二〇二一年九月十一日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、いま世界中で、異常な豪雨や台風、猛暑、海面上昇など、地球の温暖化による気候危機が大問題になっています。みなさんのお近くにも、豪雨などの災害で苦労された方がいらっしゃるかもしれません。地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量を、今後１０年足らずの間に半分近くまで減らせるかどうかに、人類の未来がかかっていると言われています。日本共産党は、２０３０年度までに、２０１０年度と比べて二酸化炭素を５０％から６０％削減し、気候危機を打開する「２０３０戦略」を発表しました

　これに対して、今の日本政府の２０３０年度までの二酸化炭素削減の目標は、「２０１３年度と比べて４６％削減」です。これは他の先進国に比べてあまりにも低すぎ、国連の示した全世界平均の削減目標よりも低いものです。そのうえ、石油など他の化石燃料に比べて二酸化炭素が多く発生する石炭を燃料とする火力発電所を、新たに作る計画です。また、「脱炭素」を口実に、危険な原子力発電に頼るエネルギー政策を打ち出しています。世界有数の高い技術力と経済力を持つ日本は、気候問題でも世界をリードする役割を果たすべき立場にあるはずです。それがこのような低い目標と逆行するような実態では、日本の気候危機への取り組みは「口先だけ」だと思われても当然ではないでしょうか。

　さてみなさん、日本共産党の提案する５０％から６０％の二酸化炭素削減は、数字だけ見ると大きすぎて不可能に見えるかもしれません。計算してみると、エネルギー消費を４割減らす省エネと、再生可能エネルギーで電力の５０％をまかなうことで達成できます。省エネは企業にとってはコストを減らし、適切な効率化をもたらすものになります。ご家庭の家計にとっても負担を減らせます。国内の再生可能エネルギーは、現在の国内の電力需要をすべてまかなってもまだ余りあるほどの量が眠っていると、政府も試算しています。日本共産党の提案は、十分に実現可能です。

　みなさん、省エネや脱炭素というと、生活水準が下がったり経済活動が低迷したりするのではないかと、心配の方もいらっしゃると思います。そんなことはありません。むしろ新しい雇用をつくりだし、地域経済を活性化し、持続可能な成長に道を開く、大きな可能性を持っています。地域にある再生可能エネルギーを活用すれば、ほとんどを海外に頼っている石油など化石燃料の輸入量が大幅に減ります。輸入代金として外国に支払ってきたお金が地域に回るようになり、地域経済を豊かにすることができる効果が期待できます。ただし、大企業の目先の利益を最優先する新自由主義の政治から、人間らしく働ける雇用のルールの確立や貧困、格差の是正といった、国民の暮らしと権利を守る社会システムの改革がなければ、うまくいきません。みなさん、地球を守り、豊かな自然環境を将来に引き継ぐため、ごいっしょに力を合わせましょう。

　最後に、スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）